

15. ウイルス性出血性疾患

ウイルス性出血性疾患 (viral hemorrhagic disease)

運動失調や後弓反張の神経症状を起こすウサギの病気に、ウサギ出血病（ウサギウイルス性出血病）という伝染病があります。この原因はカリシウイルス科ラゴウイルス属ウサギ出血病ウイルス（RHDV）が原因で、ウイルスは1型と2型に分類されます。

2010年以降、世界的に流行し、我国でも1994年（北海道）で1995年（静岡県の観光牧場）、2019年（愛媛県、茨城県）、2020年7月（栃木県北地区）で発生が確認されました。症状があまりなく突然死する、元気、食欲なく発熱、感染後期には神経症状や鼻出血の症状が特徴です。またこの病気は伝染力が強く、致死率が高いのが特徴で、うさぎの届出伝染病でもあります。

三鷹獣医科グループ・新座獣医科グループ 代表

日本動物病院福祉協会認定の内科認定医

特定非営利活動法人、小動物疾患研究所 理事長

小宮山典寛